

1. 件名：福島第一原子力発電所における環境線量低減対策に係る面談
2. 日時：平成28年12月19日（月）13時40分～14時50分
3. 場所：原子力規制庁 9階会議室

4. 出席者

原子力規制庁 原子力規制部

東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

今井室長、片岸安全審査官、尾下安全審査官、長崎技術参与

東京電力ホールディングス株式会社

福島第一廃炉カンパニー プロジェクト計画部 担当3名

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社から、福島第一原子力発電所における環境線量低減対策について、資料に基づき以下の説明があった。
 - 4号機取水路前のCs、Sr吸着繊維の性能評価
 - ✓ 海側遮水壁閉合前の開渠内放射能濃度が高い時期に、海水の浄化方法を検討するため4号機取水路前に設置していたCs、Sr吸着繊維の性能評価を行った。Cs-137の吸着性能は放射能濃度が低い状況で吸着量が頭打ちになり、Srに関しては、海水中の大量の安定同位体がSr-90の吸着を難しくしていることが認められた。その後、海側遮水壁が閉合され、開渠内の放射能濃度が低下したこと、吸着繊維に藻が付着して吸着性能が落ちたことから、平成28年11月8日に撤去した。今後、放射能濃度が高くなるようなことがあっても対処できるような浄化方法について検討を行う。
 - タービン建屋東側の地下水及び海水中の全β、トリチウム等放射性物質の濃度
 - ✓ 降雨、地下水位の上下及び配管の滞留等に起因すると思われる変化が見られたが、いずれも過去の変動の範囲内。
- 原子力規制庁は、海水の浄化方法について検討を行った場合、その内容を説明するよう依頼した。

6. その他

配付資料

- 港湾内に設置したCs、Sr吸着繊維の性能評価結果について
- 排水路の対応状況について（2016年10月27日）
- タービン建屋東側における地下水及び海水中の放射性物質濃度の状況について
- 原子炉建屋からの追加的放出量の評価結果（2016年11月）
- 福島第一原子力発電所 1号機原子炉格納容器ガス管理システムの気体サンプリング結果